

《平成26年度川西市市民協働事業成果報告会》

親子で遊ぼうデーwith総合センター

平成27年5月26日

NPO法人育ちあいサポートブーケ

《事業の概要》

☆体育室と室内体育用具等を活用し、のびのび自由に遊べる場と時間を提供

☆毎月2回 10:00～11:30

☆総合センター3階体育室にて

☆1～3歳児とその保護者 定員35組

☆開催日を市報でお知らせ

☆申込み不要 当日受付

コンセプト

子どもの笑顔を見られる場に！

多様であることを受容する場と時間
できるだけ「～ねばならない」をつくらない

参加者をお客様に育ててしまわないように！

子育ての主体は親、を伝える支援の場
できるだけお膳立てを控える

ウォーミングアップタイム













自由あそび



























クールダウンタイム







実績

《実施回数》 計24回

《参加者数》 延べ1,318人

《従事者数》 延べ118人

☆開催回数の拡充

☆父親の参加増加

協働に至る経緯

●親子で遊ぼうデー H23年度～スタート

- 依頼を受けて、運営をお手伝い
- どのような事業に育てていくのか？話し合い
- 事業の趣旨を共通理解し、実施内容を試行錯誤
- 主催者と参加者とブーケスタッフとが共に遊ぼうデーの風土醸成に取り組んできた

●H26年度～協働事業

- ブーケのスタッフ増員
- 趣旨の浸透、定着

市との協働

- ・参加者

安心感・参加しやすい
情報が届きやすい



- ・法人

理念を追求した事業を実現できる
安定的に事業を実施できる
団体として成長できる

今後の課題



- スタッフの体制のさらなる強化
ー 多様なメンバーの参画の輪を広げ
地域の方の活躍の場にも
- アンケート調査等による評価、検証

初心を忘れず、本年度も頑張ります！

《平成26年度川西市市民協働事業成果報告会》

親子の絆づくりプログラム赤ちゃんがきた！
With子育て・家庭支援課

平成27年5月26日

NPO法人育ちあいサポートブーケ

親子の絆づくりプログラム 赤ちゃんがきた！ BPプログラム

（開発者：NPO法人こころの子育てインターねっと）

親が親として育つことを支援する場として
親参加型の親学習プログラムを実施



実施概要

☆生後2～5か月の乳児(第一子)とその母親

☆仲間づくり・育児の基礎知識の習得

☆1回2時間、1クール＝週1回×4週

☆けやき坂・川西南公民館

計2クール実施

☆ファシリテーターと運営補助













「親が親として育つことの支援」の必要性の背景 ～現代の子育ての困難さ～

- * 親になる準備ができないままに親にならざるを得ない状況
- * 母子が孤立している子育て環境
- * 生き方の変化

乳幼児に触れる経験の不足

子どもの行動や感情の動きをよく知らない

「なぜ泣いているのかわからない」

「予測できないことが頻繁に起こる」など



親になる準備なしに親にならざるを得ない
ため、精神的ストレスが高い

母子カプセル状態

子どもをほとんど知らないまま
親になっている現代の母親たちが
孤立して子育てをしている状況



価値観の変化

多様な選択肢のなかで「子育て」を選ぶと
という生き方



誰であっても虐待を生みやすい現状

⇒広く未然防止の対策を

BPプログラム

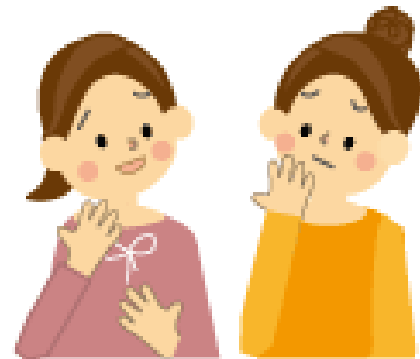
①育児の基礎知識を学ぶ

見通しをもてる

対処のスキルがあがる

②仲間づくりを促す

相談できる相手ができる



様々な支援事業の中でも、実施しやすく、
実効性の高さ、手応えを実感している

BPプログラムの掲げるミッション

短期ミッション

仲間づくり・子育て知識の習得

- ・親の不安を軽減させ、親自身が安定して子育てできること

中長期ミッション

子どもや家庭の問題行動を早期に予防

- ・虐待の防止
- ・子どもが思春期・青年期を乗り越えられるように

アンケートより(1)何が変わったか？

- ・子育ての方法に決まりはなく、子どもと自分のペースですすめればよいと思えるようになった。子どもが泣いても、**大らかな気持ち**でいられるようになった。
- ・息子のことが、今までよりももっと**大事な存在**になった。これからもママ頑張ります！
- ・悩んだり大変なのは**自分だけじゃない**と気づいたり、自分の子育てに少し**自信**がもてた。
- ・**考え方が変わった**。不安や心配をかかえて生活していたが、なんでも話せていろんな話をお母さんたちから聞けてよかった。

アンケートより(2)

これからどのように子育てしていきたいか？

- ・リラックスして、わからないことはいろんな人にききたい。
- ・「自分らしさ」わが子のもっている「らしさ」を追求していきたい。
- ・「この子はこの子」「この子のペースで」と思って、
周りと比べることなく、のびのび自由に育ててあげたい。毎日笑って、楽しく子育てしていきたい。
- ・周りの色々な人に助けを求め、のびのびしていきたい。

効 果

- 子育てしていく上でのスキル体得
- 乳児期の大事さを認識できる
- 親としての覚悟が決まる

☆ 早期に手をうつ虐待防止

☆ 思春期に花開く子育て



先駆的取り組みとして

	市	ブーケ	ALL川西	
H24(2012)年度実施	—	2	2(40組)	※
H25(2013)年度実施	2	1	3(60組)	
H26(2014)年度実施	2	—	4(80組)	
	2			
H27(2015)年度(予定)	5		5(100組)	

※H24(2012)年度～25(2013)年度近隣実施状況(日本BPプログラムセンターHPより)

箕面市 17クール
池田市 13クール
尼崎市 6クール
川西市 5クール
豊中市 4クール
西宮市 2クール
宝塚市 1クール

子ども虐待ゼロの街づくり
初めて赤ちゃんを産んだ
すべての母親に
BPを届ける

H26(2014)年3月末時点 兵庫県内実施市区町村10

市との協働

- ・赤ちゃん訪問員、子育て支援相談員、地域の団体がファシリテーター資格をもち、連携して実施していることは貴重な取り組み
- ・第一子出産の市民が万遍なく受けられるよう、虐待防止策のひとつとして位置づけられ、早急に実施の機会を拡充していけることが理想



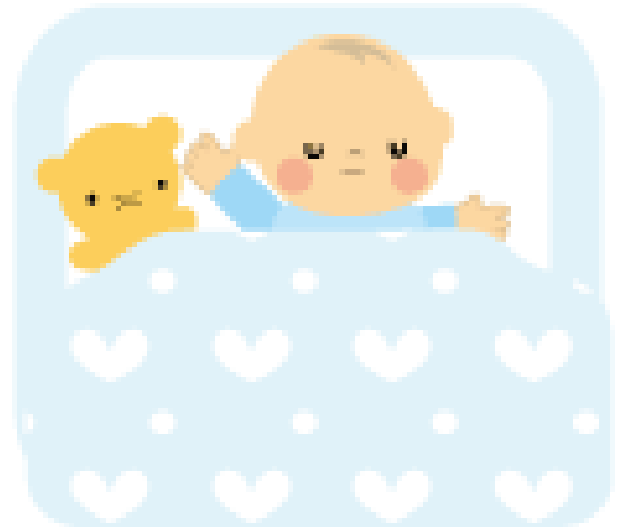
今後の課題

- 量的質的拡大

潜在するファシリテーターの協力・調整

協働の役割分担の工夫

- 追跡調査等 効果の検証



赤ちゃん先生プロジェクト ～市民協働事業補助金～

赤ちゃん先生プロジェクト 阪神北校



活動報告 川西市立明峰中学校

11月13日11時50分～12時40分

4クラス153名

テーマ「育児体験を通して感じ考える」

ママ講師の赤ちゃん先生が生まれてからの生活の変化の話を聞いたり、着替えや抱っこ紐・離乳食などの育児体験を通してママたちがどれだけの愛情と手間をかけて1人の赤ちゃんを育てているかを知り、今まで育ててくれた人への感謝の気持ちを芽生えさせる。また、遠い将来親になることを想像する。



しっかりと話を聞いてくれました。

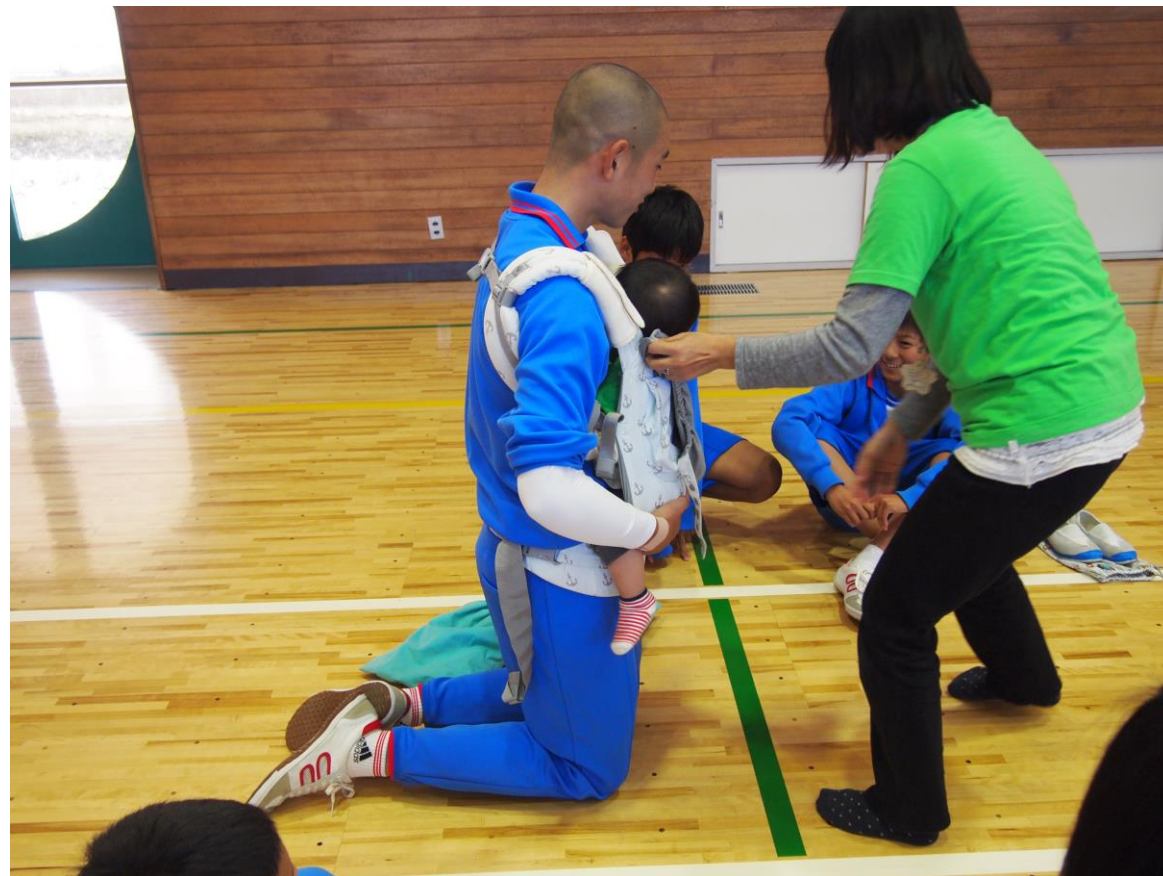
あまり聞くことのない赤ちゃんの
日々のお世話のお話を、母でもなく、
先生でもない、赤ちゃんの母から聞
きます。





男子も女子も力を合わせます。

赤ちゃんは温かく命の重さを感じます





どうすれば、機嫌がよくなるのか
赤ちゃんをしっかり見て、感じて、考え
ます。

泣いている赤ちゃんには
「絵を書いたら喜ぶんじゃない？」
他者を思う気持ちが芽生えています。



活動報告 川西市立東谷中学校

12月3日10時50分～10時40分

11時50分～12時40分

8クラス314名

テーマ「育児体験を通して感じ考える」

ママ講師の赤ちゃん先生が生まれてからの生活の変化の話を聞いたり、着替えや抱っこ紐・離乳食などの育児体験を通してママたちがどれだけの愛情と手間をかけて1人の赤ちゃんを育てているかを知り、今まで育ててくれた人への感謝の気持ちを芽生えさせる。また、遠い将来親になることを想像する。



泣くときは身体いっぱい使って
なきます。

「僕もこんなに泣いたのかな」
「お母さんって大変だな」
「家に帰って赤ちゃんの時の
話をきいてみよう」





赤ちゃんは本能で誰からでも
食べ物をもらったりしません。

「わ～、食べてくれた」
「腕、結構、つかれるんだね。」





お着替え体験。

「ちいさな足。折れちゃう。」
「着替えも一苦労」





階段しかないところでは、
ベビーカーで、抱っこして、
大きな荷物持って・・・

「こんなに重いもの一人でもつんです
ね」

「今度、赤ちゃん連れたママをみたら
手伝ってあげたい。」



活動報告 川西市立多田東小学校

10月7日,11月11日,12月9日,1月22日,2月24日

(計5回) 10時50分～11時35分

2年生119名

年間テーマ「みんな大事な命」

1回目 「どれだけおおきくなったかな」

2回目 「赤ちゃんとお話しよう」

3回目 「泣く」

4回目 「命の力」

5回目 「みんなの未来」

1回目「どれだけおおきくなったかな」

＊赤ちゃんとふれあい、手や足の大きさを自分と赤ちゃんで比べることにより、自分が成長したことを感じてもらう。

＊日頃、赤ちゃんがどのような生活を送ってるのかを赤ちゃんのお母さんから聞くことで、自分を育ててくれた人への感謝の気持ちや命の大切さに気付いてもらう。

＊お友達が赤ちゃんと触れ合っている時の表情や行動などもしっかり見てもらい、お友達への共感力を高める。

2回目「赤ちゃんとお話しよう」

*** 言葉の持つ力についてワークを通して体験し、それを知ること
で言葉の使い方を学ぶ。**

*** 言葉の使えない赤ちゃん先生がどのようにして自分の気持ちを
伝えているのかを知り、また触れ合うことで言葉の持つ力、使い
方について考える。**

3回目「泣く」

*** 泣くことを通してコミュニケーションをとっていることに気付く。**

*** 泣くことは、感情を表現する大切な役割を果たしていることを知る。泣くことはネガティブなことではないと知る**

*** 友達に対して思いやりを持った態度で接することを学ぶ。**

4回目「命の力」

- * 赤ちゃんのお母さんから出産のお話を聞くことで命の奇跡を知る。
- * 自分自身が生まれたかった命であること。生まれることのできない命があることも知る。
- * 自己肯定感を持つ。
- * 赤ちゃん先生とのより深い愛着形成。

5回目「みんなの未来」

- * これまでを振り返り、みんな大事な命だと感じること。
- * 大事な命は、自分や赤ちゃんだけでなく、周りの人にもあることを知る。
- * 赤ちゃん先生と自分の未来を考える。



「めぐりちゃんのお母さんは、めぐりちゃんがたからものといっていました。私もお母さんのたからものなんだとおもった」

「あかちゃんのおかあさんはたいへんだけど、たくみくんのことをたいせつにおもっているのがわかりました」

「赤ちゃんはとっても温かった」

「うまれてこれなかった命はどうなったのか、おおきくなって勉強したい」

「赤ちゃんもお母さんもこれからも元気でしあわせになってほしいとおもった」

参加したママ



「あのままだと虐待も明日は我が身でした」
「社会の役に立てていると感じます」
「社会にでたことで働けると感じました」
「自分にだってできることがあると思いました」
「自分が住む町、子どもが育つ町だから、私がよくしたい」
「川西が好きになりました」



ビジョン「日本の無縁社会を解消する」
ミッション「子育て中がメリットになる働き方を創る」

